

健康科学研究科 作業療法学専攻 修士課程

健康科学研究科 健康科学専攻 作業療学分野 博士課程

教育方法と教育の特色ある工夫

本学の各研究科・専攻は、それぞれの教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、専門領域ごとの特色を活かした教育方法による教育・研究を行っています。教育方法の特色ある工夫としては、入学生に社会人が多いことを活かしたフィールドワーク研究を推奨し、研究の成果を社会に還元できることが挙げられます。

【教育方法】

作業療法学専攻では、乳幼児から高齢者まで、心身に病気や障害のある人々、またその予備軍を対象に、各人にとって意味があり、また必要な「作業」を可能にすることを目的とする実践的な作業療法を探究いたします。研究テーマは自ずと広範囲にわたるため、座学だけではなく、フィールドワークを取り入れた教育方法を重視しています。臨地・臨床の場を使いながら、機能障害から生活障害までを視野に入れた教育方法の工夫と研究テーマを模索し、探究できるような教育・研究環境を準備しています。

【教育の特色ある工夫】

- ・作業療法学専攻の特色は、身体障害領域の他に、作業活動分析学及び生活障害に関する授業科目を開講し、身体機能障害にとどまることなく、生活機能や生活障害まで広い領域にわたって学ぶことが出来ることです。
- ・教育方法の講義では主に国内外の原著論文の精読を通して、論文を批判的に読む力、すなわちクリティカルシンキング力を身につけることができます。
- ・更に演習では、検索した論文のプレゼンテーションをピアレビューすることで、院生同士の学び合う力をつけるよう工夫すると同時に、新しい動作分析解析装置を活用した上肢装具や生活支援機器の開発に繋がる研究を目指しています。

【健康科学研究科 健康科学専攻（博士課程）教育の特色ある工夫】

- ・作業療法学専攻・分野は、修士課程から博士課程へと続く専門分野の研究の連続性を保つことを重視しています。
- ・本専攻では、病気や障害のある人々だけではなく、何らかの作業障害を有する人々を対象とするため、基礎研究から応用研究まで多岐にわたる研究テーマを認め、研究者の臨地・臨床のフィールドを活用した研究の推進を奨励しています。

- ・研究倫理全般と臨床研究の倫理を理解し、必要な手続きを修得するためにeラーニングも活用しています。
- ・研究自体は各院生が指導教員と相談しながら進めますが、多様な医療職種の院生が共に学び合うことができる本専攻では、専門の枠を越えて他職種を理解し連携し協働する力を身につけることを通して、健康科学に関する広い視野に立って臨床や教育・研究の場で活躍できる人材を育成しています。